

ゼミ 3 年生が保育所見学に行きました

教授 鈴木佐喜子

子ども支援学専攻の 3、4 年生は 2 年間同じゼミで学びます。鈴木佐喜子ゼミの 3 年生は 10 名。保育や子育てを中心に研究・学習に取り組んでおり、こうした学習の一環として練馬区向山保育園に見学に出かけました。

園長先生に園の概要を話していただいた後、園内を案内していただきました。その後、学生は 2 名ずつに分かれてクラスに入り、保育を見学しました。見学後の園長先生、保育士の方との話し合いでは、質問・感想を出し合い、保育への理解を深めました。学生たちの感想を紹介します。

学生たちが「すごい!」と思ったのが、あそびのコーナー、遊具の置き方、手作りおもちゃ、ソファや絨毯などの環境構成です。「ままごとコーナー、絵本を読むコーナー、ブロック遊びをするコーナーなど、子どもたちの遊びが充実できるよう環境構成が行われていると思った」「大学の講義で環境構成について学んでいたが、コーナーを作った保育室を見ることは初めてだったので、勉強になった」「環境構成を時々変えるということも印象に残った」。

夜 8 時までの延長保育の取り組みから多くのことを学びました。「ソファや絨毯、(夕食では)マイ茶碗、マイコップがあり、冬にはこたつや鍋など、子どもたちにとって過ごしやすい環境になっているのではないかと感じた」「子どもたちが長時間過ごす場所だから、子どもがくつろいで安心して生活出来るようにすることの大切さを学んだ」。

保育に対する園の姿勢や保育者の努力も学生の心を打ちました。「子どものことを考えて遅くまで話し合いをし、手作りおもちゃがたくさんあるなど、子ども中心に保育・対応を考えていることが伝わってきた。保育に正解はないけれど、一つ一つ子どもの事を思い、意味や願いを込めて保育を行うことが大切だと思った」「子どもたちが元気に過ごせるのは保育園や保育者が子どものことをしっかり考えているからだと思いました」。

短い時間でしたが、学生たちが保育を見る目を広げ、深めることの出来た保育所見学でした。お忙しいなか見学を受け入れて下さった向山保育園の先生方、ありがとうございました。

